

# 03 エスカレーター

## ベビーカーでのエスカレーター利用には危険がいっぱい

街中でよく見かける、ベビーカーでのエスカレーター利用ですが、実はとても危険です。

エスカレーターでつまずくなんて考えられないと思う方は多いでしょう。また、使わないと移動が大変だという気持ちもあるでしょう。しかし、エスカレーターの降り口には小さいですが段差があり、車輪が引っかかる場合があります。また、エスカレーターが急停止する場合一瞬、上から荷物などが落ちてくることも考えられます。ベビーカーを持つ体制はバランスが悪く、こうしたアクシデントに対応できない可能性があるため、大変危険です。

ベビーカーを使う場合はエスカレーターを避け、エレベーターや階段を利用しましょう。

出かける前に移動先や乗換駅などのエレベーター情報を調べておくことスムーズに移動できます。駅のエレベーター情報は鉄道各社のホームページや、駅で配布しているバリアフリー情報を掲載した冊子などで調べることができます。



意外に危険なエスカレーター！

子どもの目線を考えた思いやりを！



# 04 子どもの目線

## ベビーカーから見る景色を考えよう

ベビーカーを使っているなかなか意識しないのが、乗っている子どもの目線です。多くのベビーカーでは、子どもの目線はパパ・ママのそれよりもずっと低く、より前に出ています。大人では気にならない場所でもベビーカーの中から見ると全く違った景色になります。

例えば、交差点の信号待ち、ベビーカーを車道ぎりぎりのところで停めるとどうでしょう。すごいスピードで目の前を車が横切っていく景色が想像できません。交差点から三歩後ろに下がる、交差点に対して横向きにベビーカーを停めるなど、子どもが驚かない工夫をしましょう。

駅の自動改札を通るときにもちょっと気をつけましょう。残金不足や乗り越し時に、子どもの目の高さくらいにある改札の扉が急に閉まると、とても怖いのではないのでしょうか。改札に切符やSuicaなどを通して、閉まらないことを確認してからベビーカーを押していくなど、少しの工夫で避けられます。

また、ベビーカーに乗ると子どもからパパ・ママの顔が見えませんが、移動していないときには、パパ・ママの顔が見えるようにベビーカーから降りて抱っこしたり、前に回りこんで目を合わせて話しかけるなど、子どもが不安を感じないよう気をつけることも必要ですね。



## 急いでいても安全運転

ベビーカーは歩いていると気にならないちょっとした段差でもぶつかって停まってしまうことがあります。ベビーカーに乗っている子どもには突然の衝撃です。

小さな段差は気をつけていてもどこでぶつかってしまうか分かりません。急いでいてもベビーカーを押しながら走ったりせず、乗っている子どものことを考えてゆっくり歩きましょう。

## 体感温度の違いを知ろう

多くのベビーカーは座席の位置が低く、道路からの照り返しや放散熱などにより、ベビーカー内の温度は高くなります。パパ・ママが感じている温度と子どもが感じる温度に差があることを知っておきましょう。特に赤ちゃんは体温調節機能が未熟です。ベビーカー内の通気を良くしたり、小まめに様子を確認するようにしましょう。



### 先輩パパの体験談

一歳の子をベビーカーに乗せて買い物に出かけた際、上りエスカレーターの降り口の段差に車輪が引っかかり、危うく後ろに乗っていた方にぶつかるところでした。そのときは必死にベビーカーを持ち上げ、何とか事故にはなりませんでした。まさか自分が危険な目にあうとは思っていませんでした。

それ以降はエスカレーターを利用せず、エレベーターや階段を使うようになりました。

(いおりパパ/三十代男性)

